

2019年度立命館附属校 教師塾V

～授業力の向上～

附属校教育研究・研修センター

9月10日(火)朱雀キャンパスにおいて、附属校教育研究・研修センター主催の教師塾Vを実施した。

立命館宇治中学校・高等学校マイスター・ティーチャー木村 慶太 先生を講師にお迎えし、「学校におけるICT活用実践例と情報モラル教育～Society 5.0の時代を前に～」と題して講演いただいた。

参加者は、14人(立命館小学校2人、立命館中高1人、立命館宇治中高2人、立命館慶祥中高3人、立命館守山中高6人)であった。

《研修の概要》

2015年文部科学省は「次期学習指導要領のための論点整理」を発表している。2021年度から入試方式も変わり、日本は世界に通用する人材の育成に向けて動き始めた。その中で教育者は未来を担う子供たちに「生きる力」を身につけさせなければならない。「生きる力」とは自分自身で考えて見て、世界を渡り歩いていける力である。

具体的な取り組みとしてアクティブ・ラーニングがあげられる。机に座って先生の話の聞くだけではなく、自分で情報を集めて調べるといった取り組みを授業の中で行う。アクティブ・ラーニングにより身につけたい力とは知識や技能を活用して複雑な事柄を問題として理解し、答えのない問題に解を見出していくための批判的、合理的な思考力をはじめとする認知的能力、人間としての自らの責務を果たし他者に配慮しながらチームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担う倫理的、社会的能力、総合的かつ持続的学修経験に基づく想像力と構想力、想定外の困難に際して的確な判断をするための基盤となる教養、知識、経験である。

上記の力を身につけさせるための方法を教育者は考えていかなければならない。子ども同士で教え合い、全員で解決していく「学び合い」を授業内に取り入れていく必要がある。

一つの方法としてICT教育があげられる。インターネットやタブレットを使用することで答えを簡単に共有したり、繰り返し答えを見返したりとポートフォリオ的な活用をすることができる。また動画や写真を使用することで、より授業を分かりやすくさせる効果がある。また説明能力の強化、協調性の高め合い、まとめる力など効果的に生徒に提供することができる。

木村先生のミニ四駆製作を通じた機械実習などの実践例を紹介頂いた。ミニ四駆製作の授業では各グループの構成員ごとに役割を決め、次にグループを超えて同じ役割を担う生徒同士で検討し、元のグループに戻り他の構成員に教え、話し合い、製作する。最後に、製作したミニ四駆でインターネットも活用し、他校とレースをする授業であった。ビデオを通して生徒たちが生き生きと学び、木村先生がつけたいと考えられていた力を獲得し、多く気づきがあったことが分かった。



これから時代は **Society5.0** の時代になる。日本は少子高齢化によって人口が減り、仕事があっても人がいない状態が生まれてくる。移民を受け入れたり機械に任せたりと試行錯誤を繰り返しながら生きていかなければならない。どこまで機械に任せ、どこまで人間が仕事していくかが重要になってくる。そして、教育の **ICT** 化は必須である。ここで、立命館宇治中学校の **ICT** 教育についてご紹介いただいた。立命館宇治中学校では、実際の授業を見ることができる **ICT** 公開授業研究会（今年度は1月30日実施）を開催し、**ICT** 教育について研鑽を積まれていると伺った。

現在、情報は溢れ、ソーシャルメディアが押し寄せている。世界中の人が情報を発信している。

生まれた時から当たり前のように情報機器に触れていくことになるデジタルネイティブ世代の子どもたちにとってインターネットは情報の収集より家族の連絡手段や友達のコミュニケーション手段、自己実現の場所、相手によってアカウントを切り替えるものとなっている。本当に **ID** やパスワード管理、アカウントの管理をしているのだろうか。最近の調査結果で「友達の悪口を書いている人を見つけたらどうする」の質問に昔は「無視する、困る」という回答が多かったが現在は「めっちゃ拡散する」と回答するが多くなっている。

特に、顔が見えない **SNS** のトラブルが多い。昨日まで、小学生だった中学生が正しく判断できるであろうか。さらに「炎上」「デジタルタトゥー」などのとんでもない結果も招く場合がある。子どもに情報モラル教育の重要性と必要性に考えて欲しい。

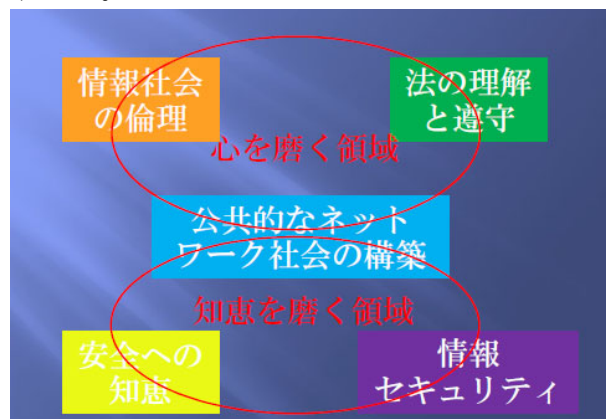
情報モラル教育は大きく「心を磨く領域」と「知恵を磨く領域」の2つの領域に分かれる。「心を磨く領域」とは人を傷つけることをしない、自分が傷つくような領域に入らない、犯罪に触れるようなことをしないことである。「知恵を磨く領域」とは、金銭的な被害にあわないことである。

そして、一方ではインターネットの本当の素晴らしさも伝えて欲しい。すい臓がんの簡易な検査法の研究につながる **TED** に登場した高校生（ジャックアンドレイカ）、東日本大震災で障害のある子ども達の救助につながったロンドンからのツイッター、映画（ライオン）にもなったグーグルアースで25年ぶりに故郷を帰った少年の話など、素晴らしい事例は数え切れない。

本日のまとめとして **AI** 時代の到来によって思いやりやアイデア、他人にできないプロの仕事が求められる。今後の社会は、一層、新しいサービスが次々登場し、デジタルコンテンツが消費生活相談の第一位になる社会になる、そして、失敗しても子どもだからと容赦してもらえない、法律は後追いになる社会になる。

子どもたちに必要な力は、情報を見極める力（鮮度・真偽）、調べる力、想像力、消費者力、ホスピタリティが必要である。思ったより早く **5G** の世界が到来するであろう。

最後に参加者の所属校の **ICT** 教育についての情報交換を行って研修を終了した。



（記録 立命館守山中高 金田 葉菜）

（編集 附属校教育研究・研修センター 羽田 澄）